

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
荷の中に片仮名だけの母の文	ラブレター書くため習うペン習字	百歳の私に出しておく手紙	窓口へ走る消印有効日	手紙読むシートベルト締めてから	恋文はきれいな記念切手貼る	この世には筆なる物のあると言う	手紙読み終えて木漏れ日浴びている	候文書いて出したい恋の文	親展で届いた手紙愛の詩	拙くも母の手紙は温かい	父さんに手紙を書いて墓に置く	追伸に隠せぬ想いにじみ出る	待ち望むプリーズ・ミスター・ポストマン	メルヘンへ届けた月のうさぎから	祖父の手紙を祖母の棺に	恥ずかしく妻に出せないラブレター	追伸に今も大事に生きと老母	元気な字読んで安堵の親心	下手な絵を添え絵手紙にするハガキ	絵手紙に向いてますねと言われた字	筆跡に決意確かな置き手紙	10円の不足で愛が届かない	クシヤクシヤになるまで読んだ母の文	したためるそんな言葉も死語になり	両親へ手紙に式は貰い泣き	私信ではあるが手紙でないメール	親展は督促状か請求書	食卓の手紙に愛の共稼ぎ	桃の香がかすかに残る母の文

課題 「手紙」

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
まだ少しおんなが残る手紙読み	返信の切手も入れるラブレター	置手紙みたいにレシビ妻遠出	親展と書いてハガキに笑われる	妻宛に手紙書くなら有り難う	白状の文は真つ赤な嘘ばかり	追伸に愛のかけらを感じとり	達筆が愛の薄さをカバーする	最強の味方母からきた手紙	旬もんは絵手紙でしか届かへん	鉛筆を舐め舐め母さんの手紙	初恋の出せぬ手紙がまだ胸に	ふる里の匂いも届く母の文	礼状を電話で済ます筆不精	読めるけど書けない漢字こんなにも	父の日に無言で届く吟醸酒	手紙から故郷の四季が溢れ出る	タラレバの目立つ手紙に風が抜け	ケータイを持たぬ母へと書く手紙	ラブレター読まれて寒い景になる	婿殿へ 一筆啓上 猫の世話	達筆の自分に酔っている手紙	ありがとうありがとうつて友の文	塩コショウたつぷり振って出す手紙	ラブレター手書きの味にビビビツと	彼の人に逢いたや手紙胸に抱く	金釘の母の手紙は世界一	ふる里の絵手紙ひとつ話しかけ	親に似た金釘流の賀状来る	ラブレター添削してる誤字脱字

( 選

